

第2学年 国語科学習指導案

1. 単元名・題名

読んだお話をしようかいしよう
「スーホの白い馬」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、過半数の子どもは「読むこと」の学習を好きと答えるが、その他の子どもは、すらすら読めなくて、内容を理解するのに時間がかかるという理由から、苦手意識をもっている。

これまでに、「スイミー」「お手紙」の学習で、登場人物のしたこと、言ったことを中心に様子や気持ちを想像する学習をしてきた。その結果、大事な文や言葉にサイドラインを引くことや、登場人物になったつもりで音読したり、動作化したりすることが少しずつできてきた。しかし「読み方の種」を用いた場面をつないで読む読み方や言葉ははずして読む読み方の習得までにはいたっていない。

○ 教材の価値・特質

本教材は、モンゴルに伝わる民話をもとに再話され、スーホと白馬の心の交流から、馬頭琴という楽器が作られた経緯が語られている物語である。この教材を学習することは、主人公スーホの行動を軸に、物語のあらすじをとらえる力を伸ばす上で、大変意義深い。

文章構成の特質としては、冒頭6行は、全体の前書きが書かれており、この前書き部分があることで、物語全体は、「馬頭琴」という楽器の由来話となっている。馬頭琴ができた由来である少年と白馬の話が、時間の経過に沿って書かれ、最後は、馬頭琴が、広いモンゴルの草原中にひろがり、現在も使われているという結びの3行で終わる展開になっている。

文章表現の特質としては、比喩や複合語、反復が多用されている。「雪のように白く」「とぶように」などの比喩は、たとえを読む読み方の種が習得でき、場面の様子をより分かり易くつかむことができる。次に、「だきかかえる」「はね上がる」などの複合語は、言葉をくらべて読む読み方の種が習得でき、より詳細に登場人物の動作を把握しやすい。また、「広い広い」などの反復も、繰り返しの言葉を読む読み方の種が習得でき、事象の強調を意識することができる。このような読み方の種の習得を通して、登場人物の行動を中心に、様子や気持ちを読み取る力を身に付けさせるのに適した教材であるといえる。

○ 指導にあたって

はじめに、題名「スーホの白い馬」の「の」に着目させ、スーホが飼っている大事な馬であることを気付かせる。冒頭の「いったい、どうして、こんながっきができたのでしょうか。」という課題文とそれに続く「それには、こういう話があるのです。」という文より、話のあらすじをとらえる読みのめあてを生み出す。

次に、読みのめあてに沿って全文を読み、あらすじをとらえて、予見を書きまとめる。予見の中で、よく分からなかったことやもっと知りたいことをはっきりさせ、スーホのしたことに対する問いかけを作り、学習計画を立てる。

読み深め・読み確かめでは、スーホの言動を表す文や言葉にサイドラインを引く【書くこと①】から取り組み、挿し絵と言葉をつないで読む読み方の種や動作化、音読、吹き出しなどの言語活動をもとに【交流】し、場面のあらすじをとらえ、スーホの気持ちを読み深める。そして【書くこと②】では、板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けて、その文や言葉に着目させて、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。

読みのまとめ・読み方のまとめでは、これまでの読みを振り返り、スーホが白馬の死んだ後も、ずっとそばにいたい思いから馬頭琴が生まれ、スーホが作った馬頭琴は美しく響くことから、馬頭琴はモンゴル中に広まったというお話を読みのまとめとする。そして、ことばの大切さに気が付き、考え、発見し、確かにするために、習得・活用した、時をあらわす言葉を読む、挿し絵と言葉をつないで読む、たとえを読む、繰り返しの言葉を読むなどの読み方の種をまとめる。さらに、このお話を学習した後、お友だちに読んでほしいと思う世界の昔話や由来を伝える本を選び、あらすじを紹介する。

3. 単元の目標

- スーホが白馬をつれてきてから、白馬が死んだ後、スーホが白馬で馬頭琴を作り、モンゴル中に広まったあらすじをまとめ、スーホの様子や気持ちを読み取ることができる。
- 挿し絵と言葉をつないで読む、たとえを読む、繰り返しの言葉を読む読み方の種を習得・活用し、書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気が付き、考え、発見し、確かにすることができる。

4. 学習計画 (全15時間)

学習過程	時 主な学習活動と内容	・「読み方の種」 ☆大切にす言葉	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○【書くこと①】の観点と手だて △【交流】の観点と手だて □【書くこと②】の観点と手だて
読みのめあて	1 単元名と題名，冒頭から読みのめあてを生み出す。 (1) 読んだお話をしようかいしようという単元名と長いお話を，みじかくまとめてしようかいしようというリード文から，学習の見通しをもつ。 (2) 題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 (3) 馬頭琴ができたわけの課題文と「こんな話」とをつないで，読みのめあてをつくる。	・言葉を比べて読む ☆スーホ「の」白い馬 ・挿し絵と言葉をつないで読む	○ 題名から気付いたこと，疑問に思うことを書かせる。 △ これまでに学習した「の」がついた物語を振り返り，スーホが飼っている馬であることを読み取らせる。 △ 冒頭にはスーホや白い馬が出てきていないこと，馬頭琴という楽器ができたのにはわけがあること，スーホの白い馬と馬頭琴ができたわけに関係があることに気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [読みのめあて] 馬頭琴というがっきができたのには，どんな話があるのだろうか。 </div>			
予見	2 読みのめあてに沿って，全文を読み通す。 3 挿し絵の順番を確かめ，スーホのしたことをつかむ。 3 予見を発表し合い，学級の予見として方向付ける。	・時を表す言葉を読む ・挿し絵と言葉をつないで読む	○ スーホの行動や話した言葉がわかる文を各場面から選び，サイドラインを引かせる。 □ 時を表す言葉に着目したり，挿し絵の順番を確認したりして，おおまかなあらすじをとらえさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [よ見] スーホは小さな白い馬をつれて帰って，心をこめてせわをした。あるばん，おおかみをおいはらって，白馬のそばにかけよった。ある年の春，町でけい馬大会がひらかれ，スーホののった白馬が一ばんになった。しかしとのさまから，白馬をとりあげられて，スーホはかなしんだ。ある日のこと，とのさまからにげだした白馬は，矢が何本もささったまま走りつづけた。そのばん，白馬はスーホのところに帰ってきて，スーホは，白馬にささっている矢をぬいたが，しんでしまった。あるばん，白馬のゆめをみて，白馬が教えてくれたとおりのがっきを作った。できあがったがっきが馬頭琴という話。 </div>			
学習計画	4 1 よく分からなかったことや，もっと知りたいことをはっきりさせ，読み深めていく計画を立てる。		△ 予見を事前に分析し発表させる。 ○ スーホがしたこと，疑問をもたせ，読み深める内容と問いかけを設定する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [学習計画] ① スーホはどんな少年なのかを読み取る。 ・スーホはいつ，どこで，どんなことをしている少年だろう。 ② 子馬をつれてきて，世話をするスーホの様子や気持ちを読み深める。 ・スーホは，白馬をどんな気持ちでつれてきたのだろう。 ③ おおかみをおいはらって，兄弟に言うように話しかけたスーホの様子や気持ちを読み深める。 ・スーホはどんなふうにおおかみの前に立ちふさがったのだろう。・どうして兄弟に言うように話しかけたのだろう。 ④ やっとうちまで帰ったスーホの様子や気持ちを読み深める。 ・かっとなつてむちゅうで言いかえたスーホは，どんな気持ちだろう。 ⑤ ある日，白馬がかげだし村へ帰ってきて，そのばん，白馬にささっている矢をぬくスーホの様子や気持ちを読み深める。 ・どうして白馬ははね上がったのだろう。・スーホは歯を食いしばりながら，どんな気持ちで矢を抜いたのだろう。 ⑥ 夢を見て，楽器を夢中で組み立てたスーホの様子や気持ちを読み深める。 ・何が悲しくて，何がうれしいのだろう。・夢中で作ったときのスーホは，どんな気持ちのだろう。 ⑦ スーホの作り出した馬頭琴が広いモンゴルの草原中に広まるまでのことを読み深める。 </div>			

読み深め・読み確かめ	6	<p>スーホとはどんな少年なのか読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引く。</p> <p>2 サイドラインをもとに、スーホがどんな少年かを話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、まずしいひつじかいの少年で、おばあさんとふたりきりでくらしていて、はたらきもので、とても歌がうまい少年だよ。</p>		<p>○ スーホのことが、書かれてある文にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ モンゴル草原の写真や生活の資料を見せながら、ひつじ飼いの生活を理解させる。</p> <p>□ 板書をもとに整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文に着目させ、スーホがどんな少年か書きまとめさせる。</p>
	7	<p>子馬をつれてきて、世話をするスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引く。</p> <p>2 サイドラインをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、子馬をつれてきて、心をこめてせわをしたんだよ。それはね、一生けんめいそだてて、大きくそだつようにと思ったからだよ。</p>	<p>・繰り返しの言葉を読む ☆一日一日 ・時を表す言葉を読む</p>	<p>○ スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ 毎日どのような世話をしていたのか考えることでスーホの思いを想像させる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
	8 【二組本時】	<p>おおかみをおいはらって、兄弟に言うように話しかけたスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことが分かる文や言葉にサイドラインを引く。</p> <p>2 サイドラインをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、おおかみをおいはらって、白馬にかけよったよ。そして兄弟に言うように話しかけたよ。それはね、ずっといっしょにいたい、だいにしたいと思ったからだよ。</p>	<p>・言葉を比べて読む（複合語） ☆はねおきる ☆とび出す ☆かけつける</p> <p>・場面と場面をつないで読む ☆年とったおばあさんとふたりきりで ☆心をこめて</p>	<p>○ 複合語の意味に着目させ、急ぐ様子が強調していることに気づかせる。</p> <p>△ 会話文の音読を通して、兄弟に言うように話しかけるスーホの気持ちを想像させる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
	9	<p>やっとうちまで帰ったスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことが分かる文や言葉にサイドラインを引く。</p> <p>2 サイドラインをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、白馬をとのさまにとり上げられて、白馬のことばかり考えていたよ。それはね、白馬といっしょにいけないかなしさと白馬がしんぱいと思ったからだよ。</p>	<p>・場面と場面をつないで読む ☆白馬をとられた悲しみはどうしてもきえません。</p>	<p>○ スーホの言葉や、したことが分かる文や言葉にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ 大切に育て、兄弟のように思って、今までいっしょに暮らしてきた前の場面をつないで、スーホの思いを読み取らせる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
	10	<p>ある日、白馬がかけだし村へ帰ってきて、そのばん、白馬にささっている矢をぬくスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 白馬のしたことがわかる文にサイドラインを引く。</p>		<p>○ 白馬のしたことが分かる文にサイドラインを引かせる</p> <p>△ 背には、つぎつぎに矢がささっても走り続けた白馬の様子を想像させる。</p>

		<p>白馬はね、はねあがって、走りつづけたよ。</p>	<p>・挿し絵と言葉をつないで読む</p>	<p>□ 大事な文や言葉におはじきを貼り付けて、その文や言葉に着目させて、白馬の様子を書きまとめさせる。</p>
11	【一組本時】	<p>そのばん、白馬にささっている矢を抜いて、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と言ったスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことがわかる文にサイドラインを引く。 2 サイドラインをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬいたんだよ。それはね、兄弟のように思っ て心から白馬にしなないでほしい と思ったからだよ。</p>	<p>・言葉を比べて読む (複合語) ☆はねおきて ☆ぼく「の」白い馬 ・挿し絵と言葉をつないで読む ・場面と場面をつないで読む</p>	<p>○ スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ ぼくの白馬に着目して、前の場面とつないで、気持ちを表出させる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
12		<p>夢を見て、がっきを夢中で組み立てたスーホの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引く。 2 サイドラインをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>スーホはね、ゆめで白馬から教えてもらって、むちゅうで組み立てたよ。それはね、いつまでも白馬のそばにいたいと思ったからだよ。</p>	<p>・言葉をはずして読む ☆むちゅうで組み立てました。 ・場面と場面をつないで読む ☆いつまでもあなたのそばにいられますから。</p>	<p>○ 白馬といつまでもそばにいたいと思うことが分かる文にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ これまでに学習したことを想起し、何が悲しいのか、何が悔しいのか考えさせる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
13		<p>スーホの作り出した馬頭琴が広いモンゴルの草原中に広まるまでのことを読み深める。</p> <p>1 スーホのしたことがわかる文や言葉にサイドラインを引く。 2 馬頭琴が広いモンゴルに広まったわけを想像し、話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く</p> <p>スーホはね、どこへ行くときも馬頭琴をもっていったよ。そして、スーホの作った馬頭琴の音色は聞く人の心をゆりうごかしたから、広いモンゴルの草原中に広まったよ。</p>	<p>・挿し絵と言葉をつないで読む ☆聞く人の心をゆりうごかす</p>	<p>○ 馬頭琴が出来た後、スーホがしたことが分かる文にサイドラインを引かせる。</p> <p>△ 聞く人の心をゆりうごかす様子を挿し絵を使って想像させ、馬頭琴が次第に広まったことに気づかせる。</p> <p>□ 板書をもとにスーホの様子を整理し、冒頭の文と最後の文を比べながら、馬頭琴が広いモンゴルの草原中に広まるまでのことを読み深める。</p>
読み・読み方のまとめ	14	<p>1 読みのまとめをする。</p> <p>【読みのまとめ】 スーホの白い馬というのはね、兄弟のように思っていた白馬がしんでしまっ てからも、ずっとそばにいられるように、スーホがゆめで白馬から教えてもら いがっきをつくったんだよ。それが馬頭琴なんだよ。スーホが白い馬で 作った馬頭琴の音色は聞く人の心をゆりうごかし、広いモンゴルの草原 中に広まったという話だよ。</p> <p>2 読み方の種のまとめをする。</p> <p>・言葉を比べて読む ・繰り返しの言葉を読む ・挿し絵と言葉をつないで読む</p>		<p>□ これまで学習した掲示物を見せ て、学習した読み方を振り返らせ 読み方の種をまとめさせる。</p>
関連	15	<p>1 お友だちに読んでほしいと思う世界の昔話や由来を伝える本を選び、あらすじを入れて紹介する。</p>		<p>・自分の好きなところや面白いと思うところがわかるように、あらすじを書かせる。</p>

第2学年 組 (公開授業①)

5. 本時 (8/15) 読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

- おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけより、兄弟に言うように話しかけるスーホの様子や気持ちを読み深めることができる。
- 言葉を比べて読む、場面と場面をつないで読む読み方の種を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して、「兄弟に言うように」の言葉のもつ大切さに気付き、考え、発見し、確かに行うことができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、スーホがどのような少年かを読み取り、スーホと子馬の出会いから、心をこめて世話をしているスーホの様子や気持ちを読み深めている。

本時は、あるばんのこと、スーホが、はっと目をさまし、はねおきると外へとび出し、おおかみをおいはらって、白馬にかけより、兄弟に言うように話しかけるまでのスーホの様子や気持ちを読み深める学習である。

そのために、まず、本時場面の音読をさせた後、スーホがしたことが分かる文や言葉にサイドラインを引かせ、あるばんの場面でスーホがしたことの順序を確認させる。

次に、ひつじのかこいのそばにかけつけるまでのスーホの様子を想像させるため、「はねおき」「とび出す」の複合動詞の意味に着目させて、急ぐ様子が強調していることに気付かせる。そして、スーホがそんなに急いでいるのはどうしてなのかその理由を、スーホが聞いたけたたましい馬の鳴き声とひつじのさわぎ、スーホの見た大きなおおかみとわかい白馬の様子とつないで考えさせる。

また、おおかみをおいはらうスーホの様子を想像させ、話し合わせる。その際、「スーホはどんなふうにおいはらったのか」「何を使って、おいはらったのか。」「何と言っておいはらったのか。」という発問を工夫する。

それから、動作化を通して、あせまみれになった白馬の体をなでながら、話しかけるスーホの様子を想像し、さらに、会話文を音読させて、兄弟に言うように話しかけるスーホの気持ちを交流させる。そこで「兄弟に言うように」とはどんなことか、前の場面とつないで考えさせることで、スーホの白馬に対する気持ちの深まりをとらえさせ、大切なひつじを命がけで守ったことへの感謝の気持ちが「どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ」につながっていることを読み取らせる。

最後に、板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。考えのまとまらない子どもには、おはじきを活用し、板書の中から、自分の考えに一番近いものを書きまとめさせる。

8. 板書計画

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時までを想起する。 ・心をこめてせわをした (2) 本時のめあてを確認し、本時場面を音読する。</p>	<p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。 ※ 本時場面を音読した後、問いかけを確認する。</p>
<p>2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[学習のめあて] おおかみをおいはらって、白馬にかけよって、兄弟に言うように話しかけたスーホのようすや気持ちを讀もう。</p> </div>	
<p>3</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[サイドラインを引く文や言葉] ①スーホは、はっと目をさました。 ②スーホは、はねおきると外にとび出し、ひつじのかこいのそばにかけつけました。 ③スーホは、おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけよりました。 ④スーホは、あせまみれになった白馬の体をなでながら、兄弟に言うように話しかけました。</p> </div>	
<p>ちを話し合う。 (1) ひつじのかこいのそばにかけつけるまでのスーホのしたことについて考える。 (2) おおかみをおいはらって、白馬のそばにかけよるスーホの様子を話し合う。 【様子】 ・手を大きく広げて ・にらみつけて ・大きな声や音を出して (3) ・火のぼうで]。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【スーホが言った言葉】 ・よくやってくれたね。白馬 ・本当にありがとう ・これから先、どんなときでも、ぼくは<u>おまえ</u>といっしょだよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【気持ち】 ・あせびつしよになるまでよくがんばったね。 ・守ってくれて、ありがとう。 ・これからも、ずっといっしょにいようね。 ・弟みたいにだいじにするよ。</p> </div>	<p>☆ はねおきる⇔おきる とび出す⇔出る …言葉を比べて読む（複合語）</p> <p>△ おいはらう様子を「手はどんなふうに」「何を使って」「どんな声で」と、おいはらう方法を発問により具体化させ、白馬にかけよるスーホの様子をとらえる。</p> <p>△ 会話文の音読を通して、「ね」「おまえ」「だよ」という言葉に着目させ、「兄弟に言うように」とはどういうことか考えさせる。</p> <p>☆ おばあさんとふたりきり 子馬を 心をこめて せわをした …場面と場面をつないで読む</p> <p>△ 心をこめて育てた前の場面と比べて、白馬に対する気持ちがよりいっそう深まったことを考えさせる。</p>
<p>4 読み深めたことを書きまとめる【書くこと②】。 ・白馬にかけよった気持ち、兄弟に言うように話しかけたスーホの気持ちを書きまとめること</p>	<p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。 □ 「スーホはね、」という書き出しを提示して、まとめさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習のまとめ] スーホはね、はっと目をさまして、はねおきると外にとび出し、ひつじのかこいのそばにかけつけたよ。そして、おおかみをおいはらって、白馬にかけより、兄弟に言うように話しかけたよ。 それはね、ずっといっしょにいたい、大事にしたいと思ったからだよ。</p> </div>	

第2学年 組 (公開授業)

5. 本時 (11/15) 読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬき、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と言うスーホの様子や気持ちを読み深めることができる。

言葉を比べて読む、場面と場面とつないで読む読み方の種を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して「ぼくの白馬」の言葉のもつ大切さに気付く、考え、発見し、確かにすることができる。

7. 本時指導の考え方

前時までに、子どもたちは、家に帰ってから白馬のことばかり考えているスーホの様子や気持ちと、矢がささってもスーホのもとへと走り続ける白馬の様子を読み深めている。

本時は、そのばん、はねおきてかけていき、白馬にささっている矢をぬき、白馬に話しかけるスーホの様子や気持ちを読み深める学習である。

そのために、まず、本時場面を音読した後、スーホのしたことが分かる文や言葉にサイドラインを引かせ、スーホがしたこととその順序をつかませる。

次に、「はねおきる」と「おきる」のことばを比べて、スーホの驚きと喜びに気付かせる。

それから、挿し絵と言葉をつないで、白馬の様子をとらえさせる。その上で「はを食いしばりながら」矢をぬくスーホの様子を想像させ、スーホの気持ちを話し合わせる。

そして、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と言うスーホの気持ちを、「ぼくの白馬」に込められた意味に着目させたり、前の場面の「これから先、どんなときでもいっしょだよ。」の約束とつなげさせたり、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」を音読させてスーホの気持ちを想像させたりして、交流させる。

最後に、学習のまとめでは、板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けて、その文や言葉に着目させて、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。考えのまとまらない子どもには、おはじきを手がかりに、自分の考えに一番近いものを書きまとめさせる。

8. 板書計画

読んだお話をしようかいしよう
スーホの白馬
おおつかゆうぞう

学習のめあて
白馬にささっている矢をぬいて、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」といったスーホのよずや気持ちを読もう。

そのばんのことばです
「白馬だよ。うちの白馬だよ。」

スーホは、はねおきて、かけていきました。
おきて
びっくり
うれしい
いそいで

白馬が帰ってきたから
さし絵とことばをつないで
白馬は、ひどいきずをつけながら
走って、走って、走りつづけて
大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。

挿し絵

よわっている
いたそう
矢が何本もささっている
目がかなしそう

くやししい
ひつしに
ちからをいれて

スーホは、はをくいしばりながら
白馬にささっている矢をぬきました

大切な
ほくだけの
「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」
これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ
つぎの日、白馬はしんでしまいました。

学習のまとめ
スーホはね、はねおきてかけていって、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬいたんだよ。それはね、兄弟のように思っ心こめてせわをした白馬に「しなないでおくれ。」

心こめてせわをしたから
きょうだいのように

けい馬にでなきや
よかつた、くやししい
だいじょうぶかい
いまたすけるからわ。

9 . 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 書くこと 交流 書くこと 「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する。 (2)本時のめあてを確認し、本時場面を音読する。</p> <p>〔学習のめあて〕 白馬にささっている矢をぬいて、「白馬、ぼくの白馬、しなないでおくれ。」と言ったスーホのようすや気持ちを讀もう。</p>	<p>掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。 本時場面を音読した後、問いかけを確認させる。</p>
<p>2 サイドラインを引く【書くこと】。 〔サイドラインを引く文や言葉〕 スーホのしたことやようすが分かる文。 スーホははねおきて、かけていきました。 スーホは、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬきました。</p> <p>3 スーホのしたことをもとに、スーホの様子や気持ちを話し合う。 (1)はねおきたときのスーホの様子や気持ちを話し合う。 ・急いで見に行った。 ・びっくりした。 ・おどろいた。 (2)スーホが見た白馬の様子について話し合う。 ・矢が何本もささっている。 ・あせがたきのようにながれおちている。 ・よわっていて、いたそう。 ・目がかなしそう。 (3)はを食いしばりながら矢をぬくスーホの様子を想像し、スーホの気持ちを話し合う。 ・だいじょうぶかい、今たずけるからね。 ・競馬にでなければよかった。 ・こんな目に会わされてくやしい。 (4)「白馬、ぼくの白馬、…」と白馬に話しかけるスーホの気持ちを交流する【交流】。 【ぼくの白馬】 ・小さい頃から心をこめてせわをしてきたので兄弟と同じ。 ・大切な、ぼくだけの。 【スーホの気持ち】 ・やっと会えたんだからしなないで ・「どんなときでもいっしょだよ」と約束したんだから、しなないで。</p> <p>4 読み深めたことを書きまとめる【書くこと】。</p>	<p>スーホがしたことが分かる文や言葉にサイドラインを引かせる。</p> <p>「はねおきる」↔「おきる」 ・・・言葉をくらべて読む</p> <p>ひどいきず ・・・挿し絵と言葉をつないで読む</p> <p>どんなときに、はを食いしばるかを確認してから、スーホの気持ちを想像させる。</p> <p>「ぼくの白馬」に着目させ、スーホが白馬のことをどう思っているかを想像させる。</p> <p>これから先、どんなときでもいっしょだよ ・・・場面と場面をつないで読む</p> <p>音読を通して、スーホの気持ちを想像させる。</p> <p>板書をもとに、読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、スーホの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
<p>〔学習のまとめ〕 スーホはね、はねおきてかけていき、はを食いしばりながら、白馬にささっている矢をぬいたんだよ。 それはね、兄弟のように思って、心をこめてせわをした白馬にしなないでほしいからだよ。</p>	